

# 韓 国 語

## 第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

### 1 前 文

3年目となる平成16年度大学入試センター試験（以下「センター試験」）「韓国語」の受験者数は昨年度（169名）より微増の174名（本試験のみ）であった。また平均点は、昨年度の170.96点から大幅に下がり、153.64点を記録した。これは、昨年度の平均点が他教科と比べ極端に高かったため、問題の難易度を高めることで是正を図った結果だと思われる。実際に本委員の検討の結果、相対的な難易度は若干あがっている。（「3 試験問題の程度」参照）

受験者の内訳は、昨年度と比べ大差がないように思われる。得点の人数分布中、140点以上の受験者が大半を占めているのは、「韓国語」受験者の大多数が民族学校出身者もしくは帰国生徒であることを顕著にあらわしている。試験制度上の変化がない限り、これからもしばらく本年度と似たような状況で推移していくであろう。

さて、本年度の試験問題の分析に入る前に過去2年間に行われた試験問題分析、及び問題作成部会との協議の中で合意されてきた事項をここで整理しておく。まず、現行の実施試験内容と高校の教育実情とは乖離した状態であるということ。つまり、本来センター試験とは、各学校の教育の現況を踏まえ、受験者の学習到達度を測定する意味で実施されなければならないのであるが、その前提が確保されていないのである。全国の約200校で実施されている韓国語教育の大部分は総2～4単位の授業である。センター試験が求める外国語の試験水準は英語に準じるわけであるから、一般的に「試験を実施したところで誰が受験するのか」という声が上がってくるのは、ごく自然である。しかし、だからと言って「韓国語」センター試験無意味論を唱えるのではなく、問題作成部会、問題評価委員とも、高等学校韓国語教育の将来を見据え、教育現場で一定程度の学習時間数が確保されたということを仮定しつつ、良質の問題作成のために議論を重ねていくべきであろうという点で合意を見た。

上記の合意事項を踏まえ、本年度の試験問題を検討していく。具体的な評価視点・観点は以下の3点である。

- ① 各問題は平均授業時間数12単位～15単位程度の内容で出題されているかどうか。この12単位という数値はこの間の協議の中で評価委員・作問委員双方から具体的に提示された適当とされる授業時間数である。
- ② また、各問題の難易度がハングル能力検定準2級以下、もしくは韓国で刊行されている言語学習教材の中級以下に位置しているかどうか。
- ③ 単純な言語知識のみを問う問題ではなく、思考力、応用力を試す問題になっているかどうか。

\* 「2 試験問題の内容、範囲等」で提示した難易度数値は

H＝ハングル能力検定試験該当級数（5、4、3、準2、2、準1、1の順で1が最上級）

K＝韓国慶熙大学国際教育院テキスト（1～2＝初級、3～4＝中級、5～6＝上級）

\* また便宜上、ハングル能力検定の2級以上に該当するものはすべて「2」、慶熙大テキストの上

級以上に該当するものにはすべて「5」と表記した。

## 2 試験問題の内容・範囲等

問題	番号	領域	H	K
第1問A～B ＊表記と発音に関する問題 各音節の終声と後に続く初声との結合で音が変わる場合の知識を問うている。この形式の出題は3年間続いている。音の変化の問題をどの程度まで学習すべきか高等学校の韓国語教育の現場では現段階で具体的な学習到達目標が確立されていないので、あくまでも語彙の発音の出題としてとらえたい。従って、出題する際の単語については、今年度のように頻度が多い単語で基礎的な音変化を問う出題になるのが望ましい。				
	1	鼻音化に関する出題。[국물] → [궁물]	準2	2
問1	2	ㄷ挿入規則 ([불일이] → [불리리]) と、ㅍパッチムと初声 [오] 音の結合により [도] の音に変化する ([못 올] → [모들]) 設問。	3	2
問2	3	ㅂパッチムと初声 [ㅎ] 音の結合による激音化 ([긴급히] → [긴급피]) と、口蓋音化 ([붙여서] → [부처서]) に関する設問。	準2	2
第1問C ＊漢字語の発音に関する問題 漢字語の学習は、日本と韓国は同じ漢字語圏に属するという共通性から語彙を増やすのに効果的な学習方法であると思われる。作問部会ではそのことを念頭に置いて、毎年、漢字語の発音に関する出題をしていると思われる。しかしながら高等学校の韓国語教育の現場では、漢字語の学習について教育課程の中での位置づけが明確に定まっていないのが現状である点から、上記A～Bの出題と同様に語彙の問題としてとらえたい。従って出題される漢字語も学習語彙の中に含まれていることが望ましい。				
問1	4	a 穩当 [온당] b 温度 [온도] c 音声 [음성] a 「穩当」は語彙の頻度の点から不適切な出題である。	2	5
問2	5	a 保健 [보건] b 保険 [보험] c 派遣 [파견] c 「派遣」は少々難問であるが、学習単語として必要であろう。	2	5
問3	6	a 共同 [공동] b 協力 [협력] c 公約 [공약] 平易な設問である。	準2	3
第2問A～F ＊基礎的な文法と表現に関する問題 多様な出題内容であるが全体の問題数の中での比重が大きすぎるように思う。各問の質的向上は図られているが、後の対話文や長文の中で出題されても良いような問題がいくつかある。				
問1	7	動詞の不規則活用 (ㄹ不規則活用) の理解度を問う平易な問題。	3	2
問2	8	動詞の不規則活用 (ㄷ不規則活用) の理解度を問う問題。語彙 (신다) はやや難しい。	3	3
問1	9	動詞の不規則活用 (ㄹ/으不規則活用) の理解度を問う平易な問題。	3	2
問2	10	用言の尊敬語を問う平易な問題。	4	2
問1	11	助詞の客体尊敬法を問う平易な問題。	4	2
問2	12	日本語の「～している」に該当する韓国語の2種類の表現と、自動詞・他動詞の区別を的確に行うことができるかを問う問題である。②「열려」が正答である。設問は「開いている」という意味であるが、誤答の「열리고 있다」は、まさに今開くという動作が行われている状態を指すことになる。「열려 있다」は、既に開く動作は完了し、その状態が維持されていることを示す。日本語の「～している」の用法があいまいであることを利用した良問であるといえよう。	準2	3
問3	13	日本語の「自然に」に該当する韓国語を選択する問題である。「자연스럽다」という語彙を知らないと解けない問題である。語彙の難易度は高いが、日韓語間の微妙な違いを認識させる良問と言える。	2	5

問 4	14	日本語「尊敬される」に該当する韓国語を問う問題。韓国語の受動形は一樣でないため語彙ごとの学習が不可欠な良問である。	2	3
問 5	15	「～をしている途中で～をする」に該当する「다가」の用法を問う問題。「다가」は日本語話者にとって意味を理解していても使用しづらい語尾であるが、実際の会話での頻度は高く、学習者への定着が望まれる文法項目である。	準 2	2
問 6	16	「～するつもり、～するところ」に該当する依存名詞「참」の挿入である。日本語の意味から「ㅁ」を挿入した受験者が多かったと推測される。実際の会話では「참」を使用しなくても同意を表現することは可能であり、頻度の点では低い語彙である点から良問とはしがたい。	2	4
問 1	17	固有数詞と漢数詞の使い分けを問う問題である。単に数詞の使い分けを問う設問であれば簡易すぎるところであるが、助数詞「번」の2種類の意味（～番と～回）によって使い分けをさせるという点で、若干捻った問題になっている。	4	1
問 2	18	語彙(나다, 닳다)と不規則活用(나으면)の理解を問う問題。使用頻度の高い「닳다」は語尾活用が不規則であるため、日本語話者に定着しづらい語彙のひとつであり良問である。	3	3
問 1	19	類義語の問題である。「사라지다 / 없어지다」の意味を理解していれば解くことのできる問題である。会話中の頻度も高いので良問といえる。	準 2	4
問 2	20	過去連体形+「적이 있다」、「아/어 봤다」がいずれも「過去の経験」を表す表現であることを理解しているかどうかを問う問題である。頻度の高い表現であるので、定着を望んでの出題であると思われる。	準 2	2
問 3	21	「틀림없이」(間違い無く)、「꼭」(必ず、きっと)の類義性を理解しているかを問う問題である。韓国での教材では上級以上の語彙となっているが、本委員の推測では両語とも使用頻度は高いように思われる。	3	5
問 4	22	「귀국한 줄로 알았다」と「귀국했다고 생각했었다」(帰国したとと思っていた)の意味を正確に理解しているかを問う問題である。連体形+줄 알다は、高頻度の割には日本語話者に定着しづらい表現である。作問者は自然な表現である「～줄 알다」の定着を望み出題したと思われる。「귀국했을 것이다」も「帰国したであろう」という推測表現だが主語が「난」であるため誤答となる。文章全体を吟味しないと間違ってしまう問題である。	準 2	5
問 1	23	日本語の「夜が明けた」を韓国語で表現する問題。日常的には「해가 뜨다」(日が昇る)という表現を多用する。語彙表現として知っていなければ自信を持って解答することはできないが、消去法により誤答からの推測も可能だ。	3	5
問 2	24	日本語の「決まって失敗するものだ」を韓国語で表現する問題。「실수하게 마련이다」自体は難しい表現だが、消去法により誤答からの推測も可能。	2	4
問 3	25	日本語の「おごってもらった」を韓国語で表現する問題。おそらく「한턱 받았다」とした受験者が多かったのではないだろうか? 「한턱 내다」という表現はあるが、「한턱 받다」という表現が無いことを理解している学習者はそれほど多くないであろう。「얻어먹다」という単語は、文字通り「もらい食い」から来たものであり、最近では「お金を出してもらおう」という意味でも使うが、高校生が学習する単語としては不適切な感がぬぐえない。	2	5
問 4	26	日本語の「ちょっと電話して来ますから」を韓国語で表現する問題。文法的な難易度は初級レベルであるにも拘らず、多くの受験者が間違った。「고」と「아/어서」の使い分けは、日本語話者にとっては奥の深いテーマである。また「～했다가 오다」も受験者を混乱させている。果たして文法的に可能な表現なのかどうか迷うところであろう。実際に「왔/었다가」が未来時制に対して使われるのはごくまれである(갔다가 오다, 들렀다 오다 等)ことも覚えておく必要があるだろう。	3	2

第3問A * A Bからなる会話文の文章を読み、正確な表現を挿入して会話文を完成させる問題。語彙・語法・読解等の総合的な力を試す問題である。				
問1	27	前文に日付を尋ねる [며칠] があることから [1월 15 일입니다] を選択させる平易な設問である。	4	1
問2	28	前文の [왜 안 오세요?] (なぜいらっしゃらないのですか?) と後文 [일이 바빠서 못 가는 거야] (仕事が忙しくて行けないんだ) をつなぐ理由として、文意が通じる [가기 싫어서가 아니라] (行くのが嫌なのではなく) を選択させる設問である。	準2	2
問3	29	前文に [누가] (誰かが) という疑問詞があることから [아무도] (誰も) を選択させる設問。[누가] を「誰が」でなく「誰かが」と訳すことが正答を導き出すポイントである。	3	3
問4	30	前文の内容から、[어쩔지 두고 보자!] (どうなるか見ているよ) を選択する設問。正答率は高かったが、[어쩔지 두고 보자!] という表現は生活上の慣用表現なので学習到達度を測る出題としては不適切である。	2	5
問5	31	前後の文章の内容から、「旅行に着ていく服」のことが話題になっていることを理解し、[파란 점퍼 있잖니] を選択させる設問である。	準2	3
問6	32	前文の [내 가방 어디 갔지?] に対する慣用表現にあたる [어딘 어디야] (何がどこだい?) を選択させる設問。問4と同様に生活上の慣用表現なので学習到達度を測る出題としては不適切である。	2	5
第3問B～C * 会話文の中の一文を韓国語訳する設問と、Aと同様に前後の文章から正確な表現を挿入して会話文を完成させる問題。文中および設問に使用された単語は適切であるが、会話文全体の意味を正確に理解しないと間違いやすい設問となっている。				
問1	33	選択肢には直訳された表現はないので最もニュアンスの近い表現を選択する設問。[어지간한 건] は非常に難易度が高い語彙であるが、消去法で正答が導き出せる設問である。	2	5
問2	34	前文 [무슨 말씀어요]、後文 [~더 열심히 해야죠] から、「まだ日本語力が不足している」という内容の表現が入ることが理解できれば正答が導き出せる設問である。	3	2
問1	35	「自生する」という表現を選択する設問。正答の [저질로 나서 자라다] を直接導き出すことができなくても、誤答選択肢にある [키우다] [가꾸다] [심다] がすべて他動詞であることが理解できれば消去法で正答を導き出すことができる。	2	4
問2	36	前後文から [산삼] (自然人参) の年数が話題になっていることを理解し、なおかつ [묵다] という単語に「泊まる」という基本的な意味以外に「年数を経る」という意味があることを理解しているかどうか問う問題である。	2	5
問3	37	後文の [판단하다] から設問が疑問文があることをまず推測して選択肢を2つに絞り、文章の前後の意味がうまくつながる表現から正答を導き出す設問である。	準2	4
第4問 * 長文問題 (下称한다体の文章) 長文問題は、設問の仕方により全文読まなくても設問箇所や空所の前後だけ読めば解答できる問題になりやすいが、この問題は全文読まなければ解答しにくい設問内容になっているので良問と言えよう。 文章の長さ、使用語彙ともに適切である。				
問1	38	「首を～すると、おじいさんが立っていらっしゃった」という日本語文になることが推測できれば、正答の [돌려 보니] (回して見ると) が導き出せる設問である。	準2	5

問 2	39	「本屋で私がある本を立ち読みしている時、声を掛けてきた見知らぬおじいさんが、私になぜか感謝の言葉を述べた」という内容と、「そのおじいさんは、私が手に取って読んでいた本の著者だった」という内容を正しく理解できれば、そのおじいさんの心境として [기뻐하실 거야] (嬉しく思われるであろう) という正答が導き出せる設問である。	準 2	3
問 3	40	「見知らぬおじいさんが私に [고맙네] と言った」理由を問う設問である。[그런 뜻] が [자기가 쓴 책을 재미있게 봐 줘서 고맙다는 뜻] (自分が書いた本を興味深く見てくれてありがたいという意味) という内容を指していることを全体的な文脈からつかむことができれば正答は導くことができる。まず [그런 뜻] という表現が何を指しているかを考えさせ、その後正答を探すという手順で解いていく問題で、長文読解力・思考力が必要とされる設問であり良問である。	準 2	3
問 4	41/42	全体的な内容の把握と、正確な文意の理解を求める設問である。正答以外にも長文内容に近い選択肢が含まれていて紛らわしいが、文脈を正確に読みとることができれば正答を導き出すことはそれほど困難ではない。	準 2	4
<p>第 5 問</p> <p>*長文問題 (下称한다체의文章)</p> <p>過去 2 年間の長文問題と比較して質・量ともに難易度が最も高い文章が出題された。ただ、文章の質に比べ設問がやや工夫に欠ける感がある。また主題として扱った韓国の占いの話は、文化的な話題としてやや不適切なように思われる。</p>				
問 1	43	助詞「(이) 나」の用法と意味を問う平易な問題である。	準 2	2
問 2	44	文脈から「老若男女を問わず」に該当する単語を探す設問である。「막막하고」は難しい語彙である。「老若男女を含んで」という意味の「포함하고」を挿入した受験者が多かったと予想される。語彙の選定としてはやや難問である。	2	5
問 3	45	「뿌리내리다」の類義語「정착되다」を探す問題。両語の意味を理解していればさほど難解な問題ではない。言い換えれば、語彙の難易度のみに頼っている問題とも言え、長文読解に適した問題であるか疑問が残る。	2	4
問 4	46	「그렇다」が指し示す内容を問う問題。すぐ前の文を指している点から平易な問題といえる。	準 2	4
問 5	47/48	長文全体の内容の理解度を問う適切な問題である。	準 2	4

参考【平成 15・16 年度センター試験問題難易度比較】

年度	ハングル検定学習の目安				
	4 級	3 級	準 2 級	2 級以上	計
2004 (平成 16) 年度	4 問 (8.3%)	10 問 (20.8%)	20 問 (41.7%)	14 問 (29.2%)	48 問 (100%)
2003 (平成 15) 年度	4 問 (8.3%)	17 問 (35.4%)	24 問 (50.0%)	3 問 (6.3%)	48 問 (100%)

### 3 試験問題の程度、設問数、配点、形式等

本年度試験を分析した結果以下のようなことが明らかになった。

#### (1) 問題の程度

昨年度の難易度がハングル能力検定の準2級と3級の間レベルであったのに対し、今年度は準2級レベルまであがっている。(前頁表参照)「平均点の著しい不均衡が生じないようにする」ねらいは達成されたが、高校での学習範囲からは若干逸脱してしまったと言わざるを得ない。

#### (2) 設問数と配点

設問数は昨年度と同じく48問の出題であった。80分という試験時間から考えると妥当な設問数であると考えられる。配点については「第2問の比重が大きすぎると思う」ことはすでに触れたとおりである。長文問題の配点を増やすなど、全体的な配点バランスに工夫が必要である。

#### (3) 出題形式

発音、漢字音の問題から始まり、基礎的文法と表現に関する出題、会話文、長文読解と続く問題構成は例年とほぼ同じでオーソドックスであり適切な出題形式である。この出題形式は来年度以降も維持していただきたい。マークセンス式の出題の場合、選択肢の設定に細心の注意が必要であるが、誤答を含めた選択肢の設定にはよく工夫が成されている。日本における韓国語教育が限られた環境の中で行われているという現状において、作問部会の方々が真摯に作問に取り組んだ結果と受け取る。

### 4 要約

上記事項を踏まえ本委員からの要望および提案を述べておく。

- (1) 上でも言及したとおり、平均点を下げることが目的とし試験問題の難易度を上げたため、高校での学習範囲(12単位を標準とする)を超えた問題水準となってしまった。次回は、語彙のレベル等を前回の水準まで戻していただくことを問題作成部会に要望する。語彙の水準を上げなくても、問12や問26のような問題を増やすことで、高水準の試験問題内容は維持可能なはずである。
- (2) 作問委員及び大学入試センターに対する提案であるが、大学入試センターが中心となり高等学校における韓国語教育の現況調査を行うのはどうであろうか。現在実施されているセンター試験の内容と実際の教育現況の間に大きな乖離があることは先に述べたとおりであるが、それを是正していくために実地調査が急務であると思われる。検討をお願いする。

以上2点、要望と提案を述べたが、センター試験「韓国語」が、高校における韓国語学習者の目標となりえるには、今しばらくの時間が必要であろう。現状をよしとせず、より高校の授業内容にそった試験問題となるよう関係者のさらなる努力を望む。